

福津市長への要望

宮地岳線の存続を求める活動におきまして、市長並びに市の企画担当の方々から、鉄道の存続の方向でのみ、西鉄、関係自治体、及び県に対応するとの方針をかねてより聞き、会員一同全幅の信頼を託し、活動の良い結果を期待しながら、これまで励んでまいりました。

6万人以上の署名を県及び関係自治体に提出したにも関わらず、西鉄からも、国土交通省における協議会からも芳しい応答が得られないことから、10月6日以来、事務局他数名の存続支持者で西鉄、国交省、県及び市の担当課に赴き、直談判を重ねた結果をふまえ、次のことを強く要望したいと思います。

1. 市民の危機意識を喚起するため、インターネット以外の方法でも広報活動を行ない、鉄道を残すことは、環境問題、飲酒運転撲滅、まちおこしの視点からも重要であること、車窓からの風景が美しく、バリアフリーの電車であるという宮地岳線の魅力や沿線でのイベント等を広く市民に伝え、乗車促進運動につとめてほしい。
2. 第3セクターが難しい場合、廃線の1年延期を強く求めてほしい。
3. 市は住民と共に新しい鉄道のための会社を立ち上げてほしい。そのための方法、試算等については、行政側で知恵を絞ってほしい。
4. 「宮地岳線の存続を求める会」とともに、西鉄に圧力をかけたり、具体的な対策を練り、市民にも見える形で全力をつくしてほしい。
5. バスを検討する場合には、宮地岳線の駅に接続するルートや、住民の目線できめ細かなサービスを行なうコミュニティバスを視野に入れ、広く住民の意見を取り入れてほしい。他の自治体のバス体験乗車会など、住民参加の企画を実現してほしい。

以上、10年、20年先の福間、津屋崎の海岸沿線が活性化するためには、宮地岳線が不可欠だと思われます。交通弱者を切り捨てる政策や大きな力に屈することなく、最後まで市民の側に立って全力を尽くして頂きたいと強く求めます。

平成18年10月19日

「宮地岳線・63000人の署名を重く受け止める会」一同